

# 幼稚園手技 (三)

及川 ふみ

保育項目の各々は、幼児の幼稚園生活の實際上から見る各項目が一つ／＼別々に幼児の生活の中におりこまれる事は少く大抵の場合二つの項目或は三つの項目がつながりあつて自然の形に幼児の生活の中に入る事が普通の型である。具體的にいつて見る談話について考へるに、興味あるお話を聞き終つて、それが自由畫として表現されて來る事もあるし、粘土製作について考へて見るに、果物を粘土で作る爲に、柿、リンゴの實物の觀察が是非とも必要になつて來るのである。一つの仕事の中にいろいろの保育項目がくみこまれてゐる事が、幼児の生活指導の上に一番自然の形で行はれてゐるわけである。従つて保育者が保育案を作成する場合に一ヶ年なり二ヶ年なりの全體の大きな保育案を先づ作成し、それを年少組と年中組に頒ち、さらに年少組を三期に頒け、又その各一期づつをさらに一ヶ月、その一ヶ月を各週に頒けて保育案を作成するのであるが單に一日二日の保育だけを見るに或は各保育項目が個々別々にならべられてゐるかの如き感じがするものである。

## 觀察と手技

各保育項目のうちでも最も密接な關係にあるものは觀察と手技であるかもしれない。一輪の花をかくにしても、一羽の鳥を畫くにしても觀察を離れての表現はないのである。よく觀るものはよく畫くものである。よく觀るものはよく作れるものである。自由畫にしても、製作にしても觀察が充分に出來てこそ始めてほんまに物を畫く事が出來、ほんまの物が作られるのである。

## 木の葉のお皿

たゞ觀察も大人まぢがひ、興味がなくては無理しひになる。秋の落葉の觀察にしても、たゞ觀察の爲の觀察だけでは幼児たちの興味が湧いてこない。拾つた落葉で何かおもちゃが作れると面白い。銀杏の葉を拾ひあつめて蝶々や鳥の形に貼るのもよいし、蔦の葉柄で龜の子を作るのもよい。形が簡單で恰好のよい蔦の葉、櫻の葉、銀杏の葉などは粘土に葉の型をこつてお皿なき作るに幼児たちが喜ぶ。作り方は簡單である。粘土を粘土板の上で五ミリから一センチ

位の厚さに平にのばす。この時一度は粘土板から粘土をはなしておかないで出来上つてからお皿が粘土板にくっついて木の葉のお皿がこはれてしまふ。平になつた粘土の上に葛の葉を裏が粘土につく様にのせて、静かに上からその部分も同じ強さで上からおさへる。

粘土ベラで葉の周圍を出来るだけ葉の形と同じ様に切りおさす。この時粘土ベラは出来るだけ立て、葉の形を崩さない様にする。次に左手で葉の上をおさへながら、右の手で少しづつ靜かに葉の周圍を持ち上げる。一部分葉をあげて葉脈が粘土によく型をつけてゐるかを見定めてから靜かに粘土から葉をさらはず。割合に容易にいろ／＼の葉の型を寫すことが出来て興味をもちながら木の葉の觀察が充分に出来るわけである。

### 古葉書の柿と栗

次に柿や、栗の觀察がきの位幼児たちに出来てゐるか畫用紙や古端書で作らせて見るに面白い。平面に栗や柿を畫いて切りぬいてもよいが、簡單に立體にも出来る。

別圖の栗は上の部分は茶色を濃く、下の部分は茶色を薄く塗る。周圍を切りきつて、上の部分の尖つてゐるところ半センチほき糊をつけて、下の方は座りのよい様に半センチ幅の底にしてお皿の上のせられる様にする。柿は一面に橙色に塗つて周圍を切りきり、イミイの部分を一センチ

位に重ねてはりつける。菱形のへたは綠色をぬつて切りおさしイミイのはり合せた中央に菱形の中心だけ糊をつけてはりつける(菱形の全部を柿の下へはりつけるまかたくなので中央だけ糊つけにする)。

### 厚紙のお皿

お皿は半徑六センチの圓が外まはりで、四センチ半の半徑で六角をつくる。内側の六角、外まはりの圓をそれ／＼適當の色でぬつて、六角の角々を少し切りおさして上の方へ折つておく(六角の角はたゞ折つておくだけで、糊づけにはしない)。

柿、栗の大きさはお皿に盛れる大きさでよいのであるが、大體柿はイミイの間は二三センチ位、幅は五センチ半位でよい。栗はロミロの間凡そ八センチ、幅四センチ位で、柿のへたの菱形は長い方が三センチ半、短い方が約二センチ半の菱形でよい。